

異学年合同給食が児童の社会性の 育成に及ぼす影響

井上 文夫・浅井 千恵子*・藤原 寛**・若狭 幸恵***

Effect of Different Grade Joint Supply of Lunch on Social Development

Fumio INOUE, Chieko ASAI, Hiroshi FUJIWARA and Yukie WAKASA

Accepted November 17, 2015

抄録：学校での社会性育成の方法として、異学年合同給食が有効かどうかを明らかにする目的で、合同給食を実施している学校と実施していない通常のクラス給食を行っている学校の児童の社会性について、質問紙を用いた尺度により比較した。社会性の尺度の「自己への気づき」、「他者への気づき」、「自己コントロール」、「対人関係」、「責任ある意思決定」、「協調性」のすべての得点において、合同給食を実施している方が高値であり、兄弟の有無、家庭での一人朝食、スポーツ少年団所属経験などの他の要因と比較しても大きな効果があると考えられた。

索引語：学校給食、異学年、社会性、食育

Abstract : This research aimed at showing clearly whether different grade joint supply of lunch is effective as the method of social training in a school. In the school with carrying out joint supply of lunch, and the school without carrying out, the social scale using question paper compared children's sociality. Children of the school which is carrying out joint supply of lunch had higher score of social scale in "self-notice", "notice for others", "self-control", "interpersonal relationship", "responsible decision-making" and "cooperativeness". Other factors such as presence of offspring, solitary breakfast, and affiliation to the sport club had not remarkable effects on social scale score.

Key Words : school lunch, different grade, sociality, food education

1. 緒言

学校給食の目的としては、「学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するもの」とされて

* 花園大学講師

** 京都府立医科大学小児科研究生

*** 本学卒業生 くらべ工房

いるが、適切な栄養摂取や健全な食生活ばかりでなく、学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うことも重要な目標として挙げられている¹⁾。社会や家庭環境が急激に変化する中で、子どもたちの社会性の形成には大きな変化が見られ、文部科学省も社会性の育成を重視するようになってきた²⁾。また、発達障害への理解が深まる中で学校生活での社会性の育成がさらに重要な課題となってきた^{3) 4) 5) 6)}。これまで学校教育の中では、道徳、特別活動（クラブ活動を含む）や学校行事による社会性の育成が主要なものとして取り組まれてきた⁷⁾。一方、平成17年に食育基本法が制定され、全国で食育への取り組みが盛んとなってきたが、その中で異学年合同給食が実施される地域も増加してきた。そういった実践の中で、マナーやコミュニケーションなどの社会性の基礎となることがらが異学年合同給食の実施された現場では実感されるようになってきた^{8) 9) 10)}。食べるという行為は生存と直結したものであり、それに関連した行動や感情は、人間形成の上で他の学習よりも影響が大きいのではないかと推測される。しかし一方で、社会性や人間関係の育成をねらいとした交流給食の指導の効果についての科学的な検証は、これまで十分にされていないのが現状である。

本研究では、普段から異学年合同給食の形態をとっている小学校の児童と、通常のクラス給食の形態をとっている小学校の児童について、その社会性や人間関係を、尺度を用いて比較することにより、異学年合同給食の社会性の育成への効果について検討し、今後の給食のあり方についての資料とすることを目的とした。

2. 対象と方法

1. 研究対象

研究対象として、T県内の公立小学校のうち、異学年合同給食（以下合同給食と略す）を行っている2校と、通常のクラス給食を行っている2校の4校に通う5, 6年生を対象にアンケート調査を行った。学校の選定については、規模や地域が大きく異なる学校のうち、趣旨を理解しアンケート調査に同意をした学校とした。アンケート対象者（在籍者数）合計350名にアンケートを配布し、262枚を回収し、回収率は75%であった。なお、合同給食実施校では、集団通学や縦割り学級による授業は行われておらず、クラス給食実施校では集団通学や縦割り学級による授業は行われていた。

2. 研究方法

上記の4校の児童を対象に、質問紙法による調査を平成24年11月から12月に実施した。調査は各小学校の担当教諭に依頼し、児童には授業中に担任により配布、回収してもらった。調査内容は、その児童に関する基本的な事項（学年、性別、兄弟の有無、学校生活に関する項目）、給食に関する項目（15項目）、社会性に関する項目（30項目）であり、社会性に関する項目は、田中らの文献¹¹⁾を基に作成し、自己への気づき（5項目）、他者への気づき（4項目）、自己コントロール（5項目）、対人関係（7項目）、責任ある意思決定（4項目）、協調性（5項目）で構成されていた。

なお、回答方法は、その児童に関する基本的な事項以外の項目は全て「よくあてはまる」、「あてはまる」、「ふつう」、「あてはまらない」、「まったくあてはまらない」の5件法を用い、「よくあてはまる」（5点）、「あてはまる」（4点）、「ふつう」（3点）、「あてはまらない」（2点）、「まったくあてはまらない」（1点）として得点計算した。

3. 統計処理方法

統計処理には、統計ソフト SPSS11.0 for Windows を用いた。各因子の得点の信頼性分析には Cronbach の信頼性係数 α を用いた。各因子の尺度得点をダミー変数として、2 要因の平均値の差の比較には二元配置分散分析を用いた。クロス表の検定にはカイ 2 乗検定を用いた。いずれも $p < 0.05$ を有意水準とした。

4. 倫理的配慮

本研究の趣旨と内容については、事前に各小学校に伝え、理解・了承を得た後に行った。アンケート調査は無記名により実施し、回答したくないものについては回答しなくてもよいことを述べた。

3. 結果

1. 対象の概要

合同給食の児童は 169 名、クラス給食の児童は 93 名であり、表 1 に示すように、性別では男子児童 144 名 (55.0%)、女子児童 118 名 (45.0%) で、給食別に有意差はみられなかった。学年別では、5 年生 108 名 (41.2%)、6 年生 154 名 (58.8%) で、給食別にみるとクラス給食の方が 5 年の割合は少なかった ($p < 0.05$)。兄弟の有無では、兄弟のいる児童 240 名 (91.6%)、いない児童 22 名 (8.4%) で、給食別に有意差はみられなかった。「週に 3 日以上 1 人で朝食を食べることがあるか」という質問に対し、「ある」と回答した児童が 38 名 (14.5%)、「ない」と回答した児童が 221 名 (84.4%) で、給食別に有意差はみられなかった。スポーツ少年団所属経験の有無では、所属している児童が 117 名 (44.5%)、所属していない児童が 137 名 (52.3%) で、給食別に有意差がみられた ($p < 0.05$)。

有意差がみられたものに関して、学年については、5 年生のクラス給食の割合が低かった。スポーツ少年団所属経験については、経験のあるクラス給食の児童の割合が低かった。

表 1 対象の概要

		給食形態		合計	χ^2 二乗検定	欠損
		合同給食	クラス給食			
性別	男	87	57	144	<i>n.s.</i>	
	女	82	36	118		
学年	5年	79	29	108	*	
	6年	90	64	154		
兄弟	有	159	81	240	<i>n.s.</i>	3
	無	10	12	22		
一人朝食	有	22	16	38	<i>n.s.</i>	1
	無	145	76	221		
スポ少経験	有	87	30	117	**	8
	無	78	60	137		

n.s.: not significant * $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

2. 給食の楽しみと社会性得点

給食の楽しみに関する 3 項目と、田中らの小学生版「社会性と情動」尺度をもとに作成した、自己へ

の気づき 4 項目、他者への気づき 4 項目、自己コントロール 5 項目、対人関係 7 項目、責任ある意思決定 4 項目、協調性 5 項目について、信頼性係数を見たところ、表 2 に示すように 0.658 から 0.871 までとなり、比較的良好な内的整合性が認められた。各要因の合計得点を項目数で除した値を用いて比較したところ、いくつかの項目で性差が見られたため、男女差を加えた二元配置分散分析を用いて比較した。

クラス給食と合同給食の比較では、給食の楽しみには差は見られなかったが、社会性の尺度 6 要因のすべてで有意差が見られ、いずれも合同給食の方が高値であった。他者への気づき、対人関係については性差も見られ、女子の方が高値であった（表 3）。

兄弟の有無では、責任ある意思決定以外の 5 要因で有意差が見られ、兄弟のある方が高値であった（表 4）が、給食形態の差ほど大きな差は見られなかった。

家庭で一人朝食を摂ることが多いものでは、他者への気づき、協調性の得点が低値であり、給食の楽しさも低値であった（表 5）。

スポーツ少年団所属の有無では、すべての要因で有意差は見られなかった（表 6）。

給食形態と兄弟の有無による 2 元配置分散分析では、合同給食はクラス給食よりも社会性の 6 要因すべてで高値であり、兄弟の有無の比較では自己コントロールと対人関係の 2 要因で兄弟がある方が高値であった（表 6）。

給食形態と兄弟の有無との二元配置分散分析を男女別に行った結果（表 7-1、表 7-2）から、兄弟の有無よりも給食形態の影響が大きく見られ、とくに女子にその傾向が強かった。

表 2 信頼性係数

	質問内容	信頼性係数 α
給食の楽しみ	給食の時間は楽しい 給食の時間が好きである 給食を食べることに満足している	0.868
自己への気づき	自分のよいところとわるいところをわかっている 自分ができることに自信を持っている 自分の気持ちの変化がわかる 自分の得意なことと苦手なことがわかっている	0.794
他者への気づき	友だちの気持ちを考えるようにしている 友だちのよいところを見つけることができる 人がいやがることをしない 人がうれしいと自分もうれしい	0.778
自己コントロール	まよったときに、ものごとを自分で決められる いやなことがあっても、やつあたりしない ムカついても、どならない 人の話をしっかり聞くようにしている 「ありがとう」や「ごめんね」がすなおに言える	0.758
対人関係	友だちの気持ちを考えながら話すようにしている 友だちが元気がないときにはげます 友だちが何か上手にできたとき、「じょうずだね」とほめる 朝や帰りに、他の人にあいさつする グループ学習や係の仕事を、他の人と協力してやることができる だれとでも楽しくすごせるようにしている ふまんに感じる意見でも、すなおに聞き入れることが多い	0.871
責任ある意思決定	周りの人にあわせて話したり行動したりするほうである 自分だけ意見がちがっても意見を言う 係の仕事をするとき、何をどうやったらいいかを言える 他の人に左右されないで、自分の意見で行動する	0.730
協調性	リーダーシップがとれる はじめたことはさいごまでやりとげる 失敗しても、それをしっかりと反省する 困っている人がいたら助けようとする 相手の気持ちを考えて行動するようにしている	0.658

表 3 給食形態と社会性得点

	給食形態	男子	女子	総和	形態差	性差
給食の楽しみ	クラス給食	4.41±0.72 (57)	4.45±0.73 (36)	4.43±0.77 (93)	n.s.	n.s.
	合同給食	4.38±0.81 (87)	4.16±0.82 (82)	4.27±0.80 (169)		
自己への気づき	クラス給食	3.99±0.71 (55)	4.10±0.68 (33)	4.03±0.70 (88)	**	n.s.
	合同給食	4.34±0.65 (87)	4.43±0.53 (82)	4.38±0.60 (169)		
他者への気づき	クラス給食	3.72±0.66 (57)	4.13±0.74 (36)	3.88±0.71 (93)	**	**
	合同給食	4.22±0.71 (85)	4.49±0.56 (81)	4.35±0.65 (166)		
自己コントロール	クラス給食	3.41±0.58 (57)	3.53±0.58 (33)	3.46±0.58 (90)	**	n.s.
	合同給食	3.69±0.85 (83)	3.86±0.80 (82)	3.77±0.83 (165)		
対人関係	クラス給食	3.78±0.67 (55)	4.10±0.77 (36)	3.91±0.72 (91)	**	**
	合同給食	4.11±0.76 (86)	4.48±0.51 (82)	4.29±0.67 (168)		
責任ある意志決定	クラス給食	3.20±0.67 (56)	3.30±0.87 (36)	3.24±0.75 (92)	**	n.s.
	合同給食	3.68±0.85 (87)	3.70±0.73 (82)	3.69±0.80 (169)		
協調性	クラス給食	3.83±1.03 (54)	3.98±0.80 (35)	3.89±0.94 (89)	*	n.s. ($p=0.058$)
	合同給食	4.07±0.76 (87)	4.29±0.65 (82)	4.18±0.72 (169)		

二元配置分散分析、数値は平均値±標準偏差(人数)

n.s.: not significant * $p<0.05$ ** $p<0.01$

表 4 兄弟の有無と社会性得点

	兄弟の有無	男子	女子	総和	兄弟差	性差
給食の楽しみ	有	4.39±0.78 (133)	4.24±0.80 (107)	4.33±0.79 (240)	n.s.	n.s.
	無	4.30±0.75 (11)	4.33±0.89 (11)	4.32±0.81 (22)		
自己への気づき	有	4.24±0.67 (131)	4.35±0.60 (105)	4.29±0.64 (236)	*	n.s.
	無	3.78±0.86 (11)	4.16±0.58 (10)	3.96±0.75 (21)		
他者への気づき	有	4.05±0.74 (131)	4.40±0.63 (106)	4.21±0.71 (237)	*	**
	無	3.73±0.60 (11)	4.11±0.68 (11)	3.92±0.66 (22)		
自己コントロール	有	3.61±0.76 (129)	3.79±0.77 (105)	3.69±0.77 (234)	*	*
	無	3.15±0.66 (11)	3.46±0.65 (10)	3.20±0.66 (21)		
対人関係	有	4.04±0.71 (130)	4.39±0.63 (107)	4.20±0.70 (237)	**	**
	無	3.31±0.83 (11)	4.08±0.44 (11)	3.69±0.76 (22)		
責任ある意志決定	有	3.51±0.82 (132)	3.57±0.80 (107)	3.54±0.81 (239)	n.s.	n.s.
	無	3.23±0.78 (11)	3.61±0.79 (11)	3.42±0.79 (22)		
協調性	有	4.02±0.88 (130)	4.21±0.72 (107)	4.11±0.82 (237)	*	*
	無	3.49±0.73 (11)	4.00±0.53 (10)	3.73±0.68 (21)		

二元配置分散分析、数値は平均値±標準偏差(人数)

n.s.: not significant * $p<0.05$ ** $p<0.01$

表 5 家庭での一人朝食と社会性得点

	一人朝食の有無	男子	女子	総和	一人朝食差	性差
給食の楽しみ	有	4.20±1.10 (22)	3.92±0.83 (16)	4.08±0.99 (38)	*	n.s.
	無	4.42±0.70 (121)	4.31±0.79 (100)	4.37±0.74 (221)		
自己への気づき	有	3.96±0.80 (22)	4.37±0.48 (15)	4.13±0.71 (37)	n.s.	n.s.
	無	4.24±0.67 (119)	4.33±0.62 (98)	4.28±0.65 (217)		
他者への気づき	有	3.72±0.88 (22)	4.22±0.48 (15)	3.92±0.78 (37)	*	**
	無	4.07±0.69 (119)	4.41±0.65 (100)	4.22±0.69 (219)		
自己コントロール	有	3.39±0.77 (21)	3.61±0.56 (14)	3.48±0.69 (35)	n.s.	*
	無	3.60±0.75 (118)	3.79±0.79 (99)	3.69±0.77 (217)		
対人関係	有	3.78±0.80 (21)	4.21±0.75 (16)	3.97±0.80 (37)	n.s.	**
	無	4.01±0.73 (119)	4.39±0.60 (100)	4.19±0.70 (219)		
責任ある意志決定	有	3.36±0.77 (22)	3.30±0.90 (16)	3.34±0.82 (38)	n.s.	n.s.
	無	3.50±0.82 (120)	3.63±0.78 (100)	3.56±0.81 (220)		
協調性	有	3.73±0.74 (22)	3.93±0.81 (16)	3.81±0.77 (38)	*	*
	無	4.02±0.90 (118)	4.25±0.69 (99)	4.12±0.82 (217)		

二元配置分散分析、数値は平均値±標準偏差(人数)

n.s.: not significant * $p<0.05$ ** $p<0.01$

表 6 スポーツ少年団と社会性得点

	スポ少参加	男子	女子	総和	スポ少参加差	性差
給食の楽しみ	有	4.31±0.81 (83)	4.31±0.77 (34)	4.31±0.79 (117)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	無	4.48±0.73 (57)	4.23±0.82 (80)	4.34±0.79 (137)		
自己への気づき	有	4.21±0.68 (83)	4.44±0.47 (34)	4.28±0.63 (117)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	無	4.18±0.73 (56)	4.28±0.65 (78)	4.24±0.68 (134)		
他者への気づき	有	4.02±0.76 (82)	4.37±0.62 (33)	4.11±0.74 (115)	<i>n.s.</i>	**
	無	4.05±0.70 (56)	4.37±0.65 (80)	4.24±0.69 (136)		
自己コントロール	有	3.57±0.78 (80)	3.84±0.66 (34)	3.65±0.75 (114)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	無	3.60±0.74 (56)	3.72±0.81 (78)	3.67±0.78 (134)		
対人関係	有	4.00±0.71 (82)	4.42±0.50 (34)	4.12±0.68 (116)	<i>n.s.</i>	**
	無	3.97±0.79 (55)	4.36±0.62 (80)	4.20±0.72 (135)		
責任ある意志決定	有	3.60±0.80 (82)	3.65±0.62 (34)	3.62±0.75 (116)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	無	3.34±0.82 (57)	3.56±0.83 (80)	3.47±0.83 (137)		
協調性	有	3.93±0.75 (82)	4.31±0.63 (34)	4.04±0.74 (116)	<i>n.s.</i>	*
	無	4.05±1.04 (56)	4.16±0.69 (79)	4.11±0.85 (135)		

二元配置分散分析、数値は平均値±標準偏差(人数)

n.s.: not significant **p*<0.05 ***p*<0.01

表 7-1 給食形態と兄弟の有無による社会性得点 (男子)

	給食形態	兄弟有	兄弟無	総和	形態差	兄弟差
給食の楽しみ	クラス給食	4.40±0.75 (50)	4.78±0.42 (7)	4.41±0.72 (57)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.39±0.80 (83)	4.00±1.15 (4)	4.38±0.82 (87)		
自己への気づき	クラス給食	4.03±0.68 (48)	3.71±0.88 (7)	3.99±0.71 (55)	**	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.36±0.63 (83)	3.90±0.96 (4)	4.34±0.60 (87)		
他者への気づき	クラス給食	3.74±0.69 (50)	3.57±0.35 (7)	3.72±0.66 (57)	**	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.23±0.70 (81)	4.00±0.89 (4)	4.22±0.71 (85)		
自己コントロール	クラス給食	3.45±0.58 (50)	3.14±0.55 (7)	3.41±0.58 (57)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	合同給食	3.71±0.84 (79)	3.15±0.91 (4)	3.69±0.85 (83)	(<i>p</i> =0.061)	(<i>p</i> =0.086)
対人関係	クラス給食	3.88±0.60 (48)	3.08±0.75 (7)	3.78±0.67 (55)	*	**
	合同給食	4.13±0.75 (82)	3.71±0.91 (4)	4.11±0.76 (86)		
責任ある意志決定	クラス給食	3.19±0.70 (49)	3.31±0.34 (7)	3.20±0.67 (56)	**	<i>n.s.</i>
	合同給食	3.70±0.83 (83)	3.25±1.33 (4)	3.68±0.85 (87)		
協調性	クラス給食	3.91±1.01 (47)	3.31±0.62 (7)	3.89±0.94 (89)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.08±0.76 (83)	3.80±0.91 (4)	4.07±0.76 (87)		

二元配置分散分析、数値は平均値±標準偏差(人数)

n.s.: not significant **p*<0.05 ***p*<0.01

表 7-2 給食形態と兄弟の有無による社会性得点 (女子)

	給食形態	兄弟有	兄弟無	総和	形態差	兄弟差
給食の楽しみ	クラス給食	4.39±0.76 (31)	4.87±1.00 (5)	4.24±0.80 (36)	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.18±0.82 (76)	3.89±1.00 (6)	4.16±0.82 (82)		
自己への気づき	クラス給食	4.06±0.71 (29)	4.35±0.38 (4)	4.10±0.68 (33)	**	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.46±0.51 (76)	4.03±0.69 (6)	4.43±0.53 (82)		
他者への気づき	クラス給食	4.10±0.77 (31)	4.25±0.59 (5)	4.13±0.74 (36)	**	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.53±0.52 (75)	4.00±0.79 (6)	4.49±0.56 (81)		
自己コントロール	クラス給食	3.53±0.55 (29)	3.50±0.90 (4)	3.53±0.58 (33)	*	<i>n.s.</i>
	合同給食	3.89±0.82 (76)	3.43±0.53 (8)	3.86±0.81 (82)		
対人関係	クラス給食	4.10±0.82 (31)	4.11±0.34 (5)	4.10±0.77 (36)	**	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.51±0.50 (76)	4.05±0.53 (6)	4.51±0.50 (76)		
責任ある意志決定	クラス給食	3.19±0.84 (31)	3.95±0.89 (5)	3.30±0.87 (36)	*	<i>n.s.</i>
	合同給食	3.73±0.74 (76)	3.33±0.65 (6)	3.70±0.73 (82)		
協調性	クラス給食	3.98±0.83 (31)	3.95±0.53 (4)	3.98±0.80 (35)	*	<i>n.s.</i>
	合同給食	4.31±0.66 (76)	4.03±0.59 (6)	4.29±0.65 (82)		

二元配置分散分析、数値は平均値±標準偏差(人数)

n.s.: not significant **p*<0.05 ***p*<0.01

4. 考察

社会性とは、一般には、人が社会的な存在として、自分の所属する集団や社会に能動的・適応的に存在し行動することで、社会や環境が期待する行動を一人一人が自ら獲得する程度や状況を指しており、個（自己）と集団（他者）を関係づける、あるいは結びつける要素になっている。学校における教育指導の側面から、子どもの社会性をはぐくむ基本的な力として、①人間関係を築く力（自己表現力、コミュニケーション）、②集団生活を営む力（目標理解、協力的活動、役割や責任の自覚）、③社会規範を守る力（自制心、自律心、道徳心、ルールやモラル）の3つが挙げられている³⁾。今回の研究においては、対人関係に含まれる項目は主に人間関係を築く力、協調性に含まれる項目は主に集団生活を営む力、自己コントロール・自己への気づきに含まれる項目は主に社会規範を守る力にあてはめて考えることができる。

社会性は、出生からおおよそ成人になるまで（十代後半まで）に育まれ、子どもが成長するそれぞれの年齢で、家庭、地域、幼稚園・保育所、学校など、様々な場での人間関係と社会的な経験を通じて発達する⁵⁾。今回はその中でも特に、学校生活において育まれる社会性として異学年合同給食に焦点を当て、兄弟の有無、家庭の食事や地域のスポーツ少年団への所属などと比較した。

学校生活の中において、社会性は様々な場面や経験から育成される。学校行事や普段の休み時間など様々な他者とかかわる実体験から獲得される、人と触れあうことの楽しさや集団の一員として役割を果たすことの充実感が、子どもたちの社会性の育成につながっている。現在、社会性の育成に有効な手段の一つとして、「異年齢の交流活動」が注目されている^{12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19)}。異年齢の交流活動が社会性育成に有効な理由として、異年齢の交流活動の中で、愛着・信頼感が形成され、モデルの形成、自己有用感の育成が行われる¹⁸⁾。こういった交流活動が効果を上げるためには、①「関わる喜び」が獲得できること、②年長者が主体的に取り組めること、③全教職員が適切な対応ができること、の3つのポイントが挙げられている¹²⁾。様々な異年齢交流活動の中でも、異学年交流給食は比較的上記の3つのポイントが得られやすいのではないかと考えられる。しかし、単に交流給食を実施するだけでは社会性は育成されにくく、そういった学校では中止されることが多いといわれ、継続して実施されている学校では、交流給食についての指導が十分に行われており、社会性が育成ばかりでなく、給食への満足度も高いことが報告されている¹⁸⁾。滝¹³⁾は、「お世話をする—される」という異年齢の関係から年長者が獲得する「認めてもらえてうれしかった」「役に立ててよかった」「必要とされていると感じた」などの感覚が大切であり、それがあれば、少々面倒だったり大変だったりしても、子どもは自ら進んで他者と交わろう、社会と関わろうとすると述べている。また、縦割り活動を積極的に実施している小学校も多くみられる。つまり、異学年の交流活動は、学校生活の中でも、子どもたちが自主的に社会性を身につけるための重要な活動となっているのではないかと考えられる。その中でも給食は、社会性の育成にかかわる集団通学や縦割り授業などの他の交流活動と比べ、子どもたちにとって自由な会話ができる場であり、心を落ち着かせ楽しみながらかかわることができ、最終的に食事を食べることで満足の中に終わることから、自主的に異学年が関われる場としてはきわめて効果的な場と考えられる²⁰⁾。

集団通学や縦割り授業は、今回調査した学校では、合同給食を行っていない学校で行われていたが、合同給食を行っていた学校では行われていなかった。すなわち、集団通学や縦割り授業実施校の子どもたちの社会性得点は低い結果となってしまう、ポジティブに働くとしても合同給食ほど大きな影響

は与えていなかったと推測される。

社会性の性差に関しては、一般には女性の方が高いと報告されているものが多いが²¹⁾、差が見られないとの報告もある。しかし、小学校の高学年では女子の方が早熟であることから社会性も高いと考えられ、本調査においても、「他者への気づき」、「対人関係」、「協調性」などは女子の方が有意に高値であった。

今回、合同給食が社会性の育成に効果があるかを、客観的に評価するため、地理的にあまり離れていない合同給食実施校と非実施校での小学校高学年の社会性を、小学生用の尺度を用いて比較した。同時に、社会性の発達に影響すると考えられる要因として、兄弟の有無²²⁾、家庭での朝食摂取状況²³⁾、スポーツ少年団所属の影響²⁴⁾についても検討した。

通常のクラス給食と合同給食との比較では、社会性の尺度の「自己への気づき」、「他者への気づき」、「自己コントロール」、「対人関係」、「責任ある意思決定」、「協調性」のすべてにおいて、合同給食を実施している方が高値であり、他の社会性に影響すると考えられる要因と比較しても大きな効果と考えられた。他の交流活動と比較すると、合同給食の場合、以下の3つの特徴があげられる。①食べるという生理的欲求がベースにあり、最終的に満足のうちに終わることが多い、②上級生にとっては、これまで毎日行ってきた給食なので、見通しをもち、自信をもって下級生を指導できる、③上級生はお手本になることができ、下級生は上級生に感謝の気持ちを持つことができる。異学年との交流を通してはぐくまれる関係から互いに獲得するものは大きく、異学年との交流をはかることで、児童の「積極的に他者とかわろう」「社会とかわろう」という気持ちを促していると推測された。今回、スポーツ少年団所属が社会性に影響が見られなかったが、運動部活動が社会性育成に有効であるとの報告^{25) 26) 27) 28)}があることから、地域のクラブと学校との違いが影響している可能性も考えられた。

一方、女子では有意ではないもののクラス給食のほうが現在の給食形態に満足している児童が多く、合同給食を実施してみたいと答える児童は少なかった。これは、気心が知れたクラスの仲間と一緒に給食を食べることに比べ、異学年と一緒に給食の時間を過ごすことは、「気を遣わなければならない」「低学年のお世話をしなければならない」「あまり関わりのなかった人と関わらなければならない」といったプレッシャーや多少の努力が必要であり、それを負担に感じる児童の存在が考えられた。

本調査では、合同給食実施校が2校、非実施校が2校と少なく、合同給食以外の要因を完全に同じにすることができなかった。結果をより明確にするには対象校および対象人数を増やす必要がある。

また本調査では、合同給食実施校はすべてランチルームで、クラス給食実施校はすべて教室で食べていた。このことから、合同給食を行うに当たっては、ランチルームのような複数の学年が集まることのできる場所が必要であり、合同給食非実施校はそのようなスペースを確保できず、「していない」のではなく「できない」可能性が考えられた。ランチルームなど合同給食が実施できる環境を整えていくことが望ましいと考えられるが、それが困難な学校に関しては、ペア給食²⁹⁾、交流給食といった、異学年で共に食事ができる場や機会を多く提供し、児童が様々な人たちと積極的に関われる状況を作っていくことが大切と考えられた。

5. まとめ

T県の小学校5・6年生を対象として、異学年合同給食と社会性との関連を検討した結果、以下の

知見を得た。

- 1) 社会性尺度のうち、「他者への気づき」、「対人関係」は女子の方が得点は高かった。
- 2) 社会性尺度の「自己への気づき」、「他者への気づき」、「自己コントロール」、「対人関係」、「責任ある意思決定」、「協調性」のすべての得点において、合同給食を実施している方が高値であった。
- 3) 他の社会性に影響する要因のうち、兄弟の有無では、「自己への気づき」、「他者への気づき」、「自己コントロール」、「対人関係」、「協調性」の得点において兄弟有で高値であり、家庭での一人食の有無では、「他者への気づき」、「協調性」の得点において一人食有で低値であり、スポーツ少年団所属の有無での比較ではすべての得点で有意差は見られなかった。
- 4) 男女別に行った給食形態と兄弟の有無との二元配置分散分析では、兄弟の有無による影響はあまり見られなくなったが、給食形態による差はあまり変わらなかった。

本研究の一部は日本学術振興会科学研究費助成基盤研究(C)(課題番号 26350832)の助成を受けた。

文献

- 1) 学校給食法 <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S29/S29HO160.html> accessed October 3, 2015
- 2) 文部科学省「豊かな心と健やかな体をはぐくむ」http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200701/001/002/002.htm, accessed Octpber 3, 2015
- 3) 有村久春「生徒指導に関する諸問題(七)～子どもの社会性をはぐくむ～」『子ども教育学科紀要』788, 2006, pp. 2-16
- 4) 田中康雄「軽度発達障害と社会性の育ち」『心理学ワールド』30, 2005, pp. 25-28
- 5) 佐藤一子「いま学校で社会性は育てられるか～地域社会・家庭とのかかわりの中で～」『児童心理』58, 2004, pp. 166-171
- 6) 長崎勤「子どもの社会性は育てられるか? : 社会性を捉える観点の検討と児童期のクラスでの社会的問題解決能力の発達から考える」『実践女子大学生活科学部紀要』52, 2015, pp. 115-122
- 7) 野本浩太郎, 石野陽子「小学校高学年児童における遊び能力と社会的スキルの心理学的研究」『島根大学教育臨床総合研究』14, 2015, pp.75-88
- 8) 藤崎真知代「交流給食の実践と児童の心理面への影響～わが国の学校給食の特質と問題～」『群馬大学教育実践研究』10, 1992, pp. 277-293
- 9) 宮崎幸恵, 鈴木博志「名古屋市の小学校におけるランチルーム, 1. 施設整備および利用形態について」『東海学園女子短期大学紀要』32, 1997, pp. 25-36
- 10) 宮崎幸恵, 鈴木博志「小学校のランチルーム, (2) 名古屋市立小学校のランチルームの現状と児童の評価」『日本建築学会東海支部研究報告集』34, 1996, pp. 633-636
- 11) 田中芳幸, 真井晃子, 津田彰, 田中早「小学生版「社会性と情動」尺度(Social and Emotional Abilities Scale for Elementary School Children:SES-C)の開発」『子どもの健康科学』11, 2011, pp.17～29
- 12) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「子どもの社会性が育つ「異年齢の交流活動」ー活動

実施の考え方から教師用活動案まで」2011

https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/2306sien/2306sien3_2s.pdf, accessed October 3, 2015

- 13) 滝充「「異学年交流」「地域交流」こそ育成の要諦～徹したい教師の「学習支援」～」『CS 研レポート』58, 2006, pp. 26～31
- 14) 長瀬善雄, 榎並雅之「社会性の育成と特別活動の役割: 人間の根源的な欲求を生む活動をどのように児童に提供するか」『近大姫路大学教育学部紀要』6, 2013, pp. 41-51
- 15) 毛利猛「小学校における「異年齢集団による交流」に関する研究: 香川県下の取り組みの調査を手がかりに」『香川大学教育実践総合研究』26, 2013, pp. 15-26
- 16) 荒木馨一「学校・学級で規範感覚を育てる 異年齢交流が育む規範感覚の醸成: 小中で実施した取り組みと成果」『児童心理』66, 2012, pp. 54-59
- 17) 外立努「異学年交流活動を中核とした小・中9年間の一貫性のある社会性育成の取組: 中学校区連携による3年間の実践を通して」『教育実践研究』24, 2014, pp. 223-228
- 18) 石原利樹, 本田千恵, 利田享次, 戸野香, 林田正彦「社会性の育成を目指した生徒指導の在り方に関する研究Ⅱー規範意識をはぐくむ異学年交流の活動を通してー」『広島大学大学院教育研究科附属教育実践総合センター』31, 2004, pp. 65-84
- 19) 岡本悠子, 大野桂, 小枝達也「小学校の異年齢集団交流による児童間の親密度の変化」『地域学論集: 鳥取大学地域学部紀要』10, 2014, pp. 85-89
- 20) 高田利武「交流給食と文化的自己観, 学校給食の社会心理学的研究」『社会心理学研究』24, 2008, pp.140-163
- 21) 堂野恵子「児童中期・後期の友だち集団関係性が社会的スキルの発達に及ぼす効果(2)ー性差の検討ー」『安田女子大学紀要』39, 2011, pp. 87-94
- 22) 山口順子, 田中理絵「きょうだいと子どもの社会的発達に関する研究」『研究論叢. 芸術・体育・教育・心理』58, 2009, pp. 193-203
- 23) 衛藤久美, 足立己幸「児童における家族との食事中的自発的コミュニケーションと食生活及び家族生活の関連」『学校保健研究』47, 2005, pp. 5-17
- 24) 杉山佳生「社会性を育むスポーツの役割」『子どもと発育発達』10, 2013, pp. 225-228
- 25) 地濃厚子「クラブ活動で上級生に教えてもらう: 異年齢集団の交流体験」『児童心理』69, 2015, pp. 121-124
- 26) 石川拓次, 渋谷郁子, 川又俊則「放課後児童クラブにおける異年齢交流が低学年児童の体力に及ぼす影響」『鈴鹿短期大学紀要』33, 2013, pp. 19-32
- 27) 上地広昭「運動・スポーツ領域における同一視の発達的变化」『スポーツ心理学研究』40, 2013, pp. 1-12
- 28) 堂野恵子「直接共感経験及び行い手・受け手のモデリングが高校時から大学時の向社会性の発達に及ぼす効果」『安田女子大学紀要』37, 2009, pp. 65-75
- 29) 山下綾子, 金子玲奈, 磯咲子, 河村美穂「ペア給食の実践とその効果: ペアと一緒に食べる 異学年の交流から」『埼玉大学教育学部教育実践総合センター紀要』12, 2013, pp. 119-123